

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 15 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02331

研究課題名（和文）形態統語論と音声学からみた東南アジア諸語における情報構造の類型論

研究課題名（英文）Typology of information structure in Southeast Asian languages

研究代表者

峰岸 真琴（Minegishi, Makoto）

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授

研究者番号：20183965

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,670,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、系統と言語類型の点で多様な東南アジア地域の言語の情報構造を、形態統語論的側面と音声学的側面の両方から分析することである。情報構造の表現は言語学の重要課題の一つであるが、従来の個別言語の記述では研究が遅れており、また地域の特徴や言語類型の視点という一般言語学的な視点を欠いていた。

本研究の成果として、東南アジア大陸部の孤立語タイプの諸言語（タイ語、ラオス語、カンボジア語、ビルマ語などの声調言語）による語順を中心とした情報構造の表現法と、島嶼部のタガログ語、インドネシア語での文法小辞の使用および文音調による表現との組合せによる表現との対比が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

自然会話および書記言語コーパスデータを作成しつつ、対面調査用の共通調査票を作成し、聞き取り調査を行った。これらのデータを基に、主として主題化・焦点化を表す語順の変化、文法標識、アクセントとイントネーションによる強調表現の分析を行った。

本研究は、類型的、地理的特徴の観点から東南アジアの主要言語の情報構造を分析する点に独創性がある。東南アジアは、言語系登場も、言語類型上も極めて多様性に満ちた地域であるが、なお一つの言語地域としてのまとまりを保っている。従来の文を単位とした記述研究を踏まえ、複数の文にまたがる情報構造の研究へと発展させた点に学術上の意義がある。

研究成果の概要（英文）：The research project investigated the information structure in major languages Thai, Laotian, Khmer (Cambodian), Burmese in mainland Southeast Asia, and Indonesian, and Tagalog in insular Southeast Asia from the viewpoint of language typology and geolinguistics. We made conversational and text corpora for discourse and/or acoustic analysis in each language. The results of our research show clear contrast in typological and areal features in expressions of information structure. Tonal and isolating languages such as Thai, Laotian, Khmer, Burmese have variations in word order; topicalization by left-dislocation and focalization by right-dislocation without morphological markers. Besides word order changes, non-tonal Indonesian and Tagalog have morphological device such as case-markers or grammatical particles, combined with intonation patterns to express information structure.

研究分野：言語学

キーワード：東南アジア諸言語 情報構造 音声分析 形態統語論

### 1. 研究開始当初の背景

言語によって伝達されるメッセージは発話の中の文という形をとるが、文は「主語 + 述語」という形式を備えた論理的な意味を表す命題とは異なり、発話の発せられる状況や、発話に先行する文脈から得られる「旧情報」を前提とした上で、話し手が聞き手に伝えたい「新しい情報」および「重要な情報」を際立たせ、強調する手段を備えている。この情報の「新旧」や発話の「前提と焦点」を表す発話・文の構成を情報構造と呼ぶが、それぞれの言語が情報構造をどのように表すかは、言語によってさまざまである。表1は、情報の前提(旧情報)と焦点が、英語および日本語でどのように表されるかを斜体字または下線で示す例である。

表1: 情報構造の型と英語・日本語での実現

| 情報構造の型 | 前提と焦点       | 英語                               | 日本語   |
|--------|-------------|----------------------------------|---|
| 述語焦点型  | 主語が前提で述語が焦点 | My car <i>broke down</i> .       | 花子 <b>は</b> 来た。   |
| 文焦点型   | 文全体が焦点      | <i>My car broke down</i> .       | 花子 <b>が</b> 来た。   |
| 項焦点型   | 主語が焦点で述語が前提 | <i>It was my car</i> broke down. | <u>私の車</u> が壊れた <b>のだ</b> 。<br>壊れた <b>のは</b> 私の車 <b>だ</b> 。 |

英語の「主語 + 述語」の構文では、主語が文の主題(旧情報)を兼ねるのが原則である。ただし、「構造」とはいても、情報構造は文中の特定の語句とは必ずしも対応しないことに注意が必要である。例えば、英語の述語焦点型と文焦点型の違いには、文構成要素とその語順の違いが見いだせないが、述語焦点型の場合は、「君の車がどうしたのか?」という問いが先行し、文焦点型の場合は、「何が起きたのか?」といった問いが先行する。このように、焦点型の解釈は**先行文脈**によって異なるほか、語順を変えずに、**語強勢**および**イントネーション**で区別することもある。

一方、日本語では原則として、いわゆる副助詞「**は**」が旧情報を、格助詞「**が**」が新情報(焦点)を表すが、「**私の車が**」を高いピッチで発音するなど、語強勢およびイントネーションによる表現も用いられる。さらに、文を構成する特定の要素(項)を焦点化する(項焦点型)には、英語では**強調構文**「*It... (that)...*」、日本語「**～が～のだ**」あるいは「**壊れたのは私の車だ**」のような**分裂構文**を用いることもできる。

このような言語による情報構造の表現法の違いは、英語では日本語よりも**基本語順**の制約が強いこと、日本語では助詞「は」と「が」のような**文法形式**が情報構造の区別を表す機能を持っていることという、それぞれの言語の持つ言語類型上の特徴と関係している。さらに通言語的に見られる表現法として、先行する**文脈**や**音調**の違いが情報構造の解釈に影響するほか、英語の**only, even**などの副詞や、日本語の「～こそ、だけ、しか」など、文中の特定の語句を取りたてる文法形式が存在することも観察されている。

文の構造だけでなく、言語によるコミュニケーションを分析する上で、情報構造の表現を分析することは現代の言語学の重要課題の一つである。しかし従来の東南アジア諸言語の研究は、個別の「文」の記述と分析を中心としており、複数の文・発話からなる「談話の文脈」の影響や音調の分析が十分とはいえない。また音調、声調などの音声レベルと文構造などの形態統語レベルとの関連を統一的に扱う視野を欠いており、さらに個別の言語の観察を超えて、言語類型論的視点や、言語の地域特徴の視点から一般化を試みるといった研究も行われてこなかった。

### 2. 研究の目的

本研究は、東南アジアの諸言語の音調、語形態、文法形式、文構造などのレベルにおいて、どのような情報構造の表現が存在し、それらがほかの言語特徴とどのように相関しているのかを、音声と形態統語論の両方の観点から分析することを目的とする。東南アジアというまとまりをもつ地域を対象にすることで、情報構造の個別言語学的記述の研究だけでなく、その表現方法と他の言語特徴との相関という理論的研究も行うことができる。

情報構造の言語類型論的研究を行うためには、東南アジアは格好の言語地域である。その理由は3つある。第一に、大陸部に分布するタイ・カダイ語族、モン・クメール語族、チベット・ビルマ語族と、主に島嶼部に分布するオーストロネシア語族など、系統を異にする多くの語族が交錯する地域である点である。第二に、言語類型の点で極めて多様である点である。語順の点でもタイ語、ラオス語、カンボジア語、インドネシア語などの「主語 + 動詞 + 目的語」(SVO)言語、ビルマ語のような「主語 + 目的語 + 動詞」(SOV)言語だけでなく、タガログ語のような「動詞 + 主語 + 目的語」(VSO)言語も存在する。形態類型の点でもタイ語、ラオス語、カンボジア語のような語形変化を持たない孤立語もあれば、インドネシア語のような膠着的な言語もある。第三に、音声・音韻の点でもタイ語、ラオス語、ビルマ語のように複雑な声調を持つ言語と、声調を持たないインドネシア語、タガログ語などの言語が存在する点である。これら音声・音韻、語形態、統語レベルにおける多様性をもつという地域の特徴が存在するにより、語族の偏りなくさまざまな言語特徴とそれら相互の関連性を分析することができる。

### 3. 研究の方法

本研究では、以下の3つの研究方法を採用する。

#### (1) 個別言語の情報構造の記述研究

言語の情報構造は、音調、語形態、文法形式、文構造などのさまざまなレベルで表現される可能性がある。このため、これまで研究分担者それぞれが蓄積してきたタイ語、ラオス語、カンボジア語、ビルマ語、インドネシア語、タガログ語のそれぞれの記述データを見直すことにより、焦点化、強調、情報の新旧の表現に関わる言語特徴の抽出を行う。主な分析項目は、接辞、助詞などの文法形式や、語順、構文といった形態統語レベルの特徴、および強勢音調、文音調のような音声レベルの特徴である。これまで行ってきた予備的な研究により、声調言語における強勢音調・文音調による情報構造の表現は、文末の助詞の母音の長短などの特徴に限定されていることは判っているため、音声レベルの音響分析は、主としてインドネシア語、タガログ語について行う。

#### (2) 各言語の自然会話コーパスおよび書記言語コーパスデータの整備

情報構造の分析を行うためには、先行文脈から得られる情報や、話し手と聞き手の間の情報のやりとりが重要な手がかりとなるため、複数の文・発話にまたがる分析を行う必要がある。本研究では、自然会話や講演などの録音・録画とその文字起こしによる話し言葉コーパスや、物語、小説などの書き言葉のコーパスデータを収集し、先行文脈と情報構造の関連性や、会話の話し手・聞き手の間のやり取りによるそれぞれの知識の管理や情報の更新を分析する。

#### (3) 共通調査表に基づく対面調査

上記(1)、(2)の研究をもとに、主題化と焦点化を中心とした共通調査票を作成し、対面調査による聞き取りを行う。音声および形態統語レベルに見られる情報構造の表現には多様性があるとはいえ、例えば話し手による聞き手への新情報の提示の手段は、普通からの逸脱 (deviation) による認知的な際立たせを利用することが多いという一般化が可能である。

音声レベルでは、英語あるいは日本語において、語の強勢アクセントの強弱やピッチアクセントの高低のコントラストを強めることや、文末を上昇あるいは下降させることは普通の発話の音声からの逸脱であり、この逸脱による際立たせが強調や疑問の表現に用いられる。

統語レベルでは、平叙文の「主語 + 動詞」という語順の制約の強い英語の場合、分裂文が項焦点を表し、「(助動詞) + 主語 (+ 動詞)」のような倒置による逸脱が疑問文に用いられる。英語に比べ、日本語では述語を文末に置く以外の語順の制約が弱いため、「昼ご飯は私はもう食べた」のような、目的語を文頭に置き、また助詞「は」を用いるという語句を左方(前方)に転位させて主題化するという逸脱によって、「晩ご飯はまだだが」、「あなたはまだ食べていないが」といった対比的な表現が可能になる。このような観点に立って、主題化・対比化、焦点化を分析するための共通調査表を作成し、これをもとに各言語の対面調査を行った。

### 4. 研究成果

本研究による主な成果は次のようなものである。

(1) 各言語の自然会話コーパスおよび書記言語コーパスデータを作成した。コーパス作成は本研究の分担者がこれまでも継続的に行ってきたが、会話、講演・対談の語りなどの話し言葉や、物語、小説などの書き言葉のデータを充実させることができた。コーパスデータの充実は、本研究だけでなく、今後の諸言語の研究を継続的に発展させるための重要な成果である。

(2) 主題化と焦点化に関する共通調査票を基に、対面調査による聞き取りを行った。統語レベルにおける分析の主なテーマは、名詞句・副詞句を文頭に移動して主題化する左方転位および文末に移動して焦点化する右方転位である。これらの研究成果については、研究分担者それぞれが国内外の雑誌に論文を執筆した。さらに本研究のまとまった活動として、言語の類型的特徴対照研究会第13回公開研究発表会(2020年8月)のテーマ「焦点化」のもとで、さらに続く第15回研究発表会(2020年4月)での口頭発表を行った。

共通調査票を用いることで、従来は語形変化を持たず、「主語 + 動詞 + 目的語」という基本語順を共有するため、形態統語レベルで類似しているとされてきたタイ・カダイ系のタイ語およびラオス語と、モン・クメール語族系のカンボジア語の間に存在する相違点の詳細が明らかになった。特に、カンボジア語において目的語を持たない自動詞文においては「主語 + 動詞」のほか「動詞 + 主語」の語順も用いられることは、カンボジア語がタイ語およびラオス語とは異なる顕著な特徴である。主題化・対比化と焦点化に関する語順と移動の可否については、カンボジア語の主題化、焦点化について、やりもらい文の間接目的語は主題化できないこと、引用節を含む選択疑問文の疑問助詞は引用節に後置できること、やりもらい文の主語を問う質問の返答には述語をつけないこと、名詞句からの数量詞句の遊離に制限があることなど、タイ語あるいはラオス語との相違の詳細が明らかとなった。

(3) 音声・音響的研究としては、主にタガログ語についてイントネーションと情報構造の関係性に関する実験音声学的研究を行った。また語単位の強勢の音響的研究を行い、強勢とイントネーションの相互作用についての音響的・聴覚的実験を行った。インドネシア語につ

いても主題表示の文法形式を含む文についてピッチパターンの分析を行うなどして、情報構造に関する文法形式と音声との相互作用についての研究を進めた。これらの研究の成果として、大きな傾向としては、東南アジア大陸部の言語では、文のイントネーションなどの音声・韻律的な要素が情報構造に果たす役割は小さいが、島嶼部の言語では形態統語論的手段と音声的手段が補完し合う形で情報構造を表現し分けているといった地域的な類型特徴が認められた。

- (4) 東南アジアの諸言語の情報構造の表現の詳細については、個々の言語について発表された分析結果に述べられているが、一方で、一つのまとまった地域としての東南アジアの情報構造について、その特徴を、東アジアの日本語や中国語、あるいは英語と比較しつつ述べるならば、以下のような共通点および相違点を見いだすことができた。

東南アジアの諸言語には、中国語や英語と同様に「主語 + 動詞 + 目的語」の基本語順を持つタイ語、ラオス語、カンボジア語、インドネシア語がある。また日本語と同様「主語 + 目的語 + 動詞」の基本語順を持つビルマ語がある。このような基本語順における違いの存在に関わらず、英語を除いて、目的語あるいは時間・空間を表す副詞句を文頭において主題化する左方転位が頻繁に行われるという点が、東南アジアから東アジアの諸言語に広く共通する特徴であるといえる。

日本語では、「一郎は**3冊**の本を買った」に対して、「一郎は本を**3冊**買った」のように、数量表現「3冊」(数詞 + 助数詞)を述語動詞の直前の位置に右方転位することにより、数量を焦点化することができる。これを一般に**数量詞遊離**と呼ぶが、タイ語、ラオス語、カンボジア語では「3冊」(数詞 + 類別詞)を右方転位することで文末におくことができるが、ビルマ語、中国語、英語では数量詞遊離は起きない。

数量詞以外についても、名詞句を右方転位して文末に置いて焦点化することは、タイ語、ラオス語、カンボジア語についてはある程度可能だが、ビルマ語では日本語と同様、焦点となる名詞句は動詞の直前には置けるが、動詞よりも後ろ(右)に置くことはできない。これはビルマ語と日本語の基本語順として動詞を文末に置くという制限が強いためである。

タガログ語およびインドネシア語では、格や主題を表す小辞(文法形式)があるが、それらの使用と文のイントネーションパターンなどの音声的な特徴との両方を使用することで、情報構造を表すという特徴がある。この点で、日本語との類似性のある程度認めることができる。

以上が、本研究によって見いだされた情報構造の表現に関する東南アジア地域の共通性と多様性のあらましである。同地域の大陸部および島嶼部における主要な言語について、情報構造という観点から共通点と相違点を解明しようとする試みは前例がなく、この点で学術上の高い意義がある。また、東南アジア地域を越えて、東アジアの中国語から極東の日本語に至るまでの情報構造表現における共通点と相違点について、孤立語、膠着語という語形態レベルの類型、基本語順という統語レベルでの類型、および声調言語、アクセント言語という音韻レベルの類型の3つのタイプの観点に加え、それぞれの地理的分布を考える言語類型地理論的な観点からも、さらに大きな展望が開けた点が大きな成果である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 15件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 20件）

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>峰岸真琴                         | 4. 巻<br>50            |
| 2. 論文標題<br>タイ語の情報構造に関わる諸表現             | 5. 発行年<br>2019年       |
| 3. 雑誌名<br>慶應義塾大学言語文化研究所紀要              | 6. 最初と最後の頁<br>189-204 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著<br>-             |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>峰岸真琴                         | 4. 巻<br>1             |
| 2. 論文標題<br>タイ語の数量表現                    | 5. 発行年<br>2019年       |
| 3. 雑誌名<br>言語の類型特徴対照研究会論集               | 6. 最初と最後の頁<br>115-132 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-             |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>Nagaya, Naonori                       | 4. 巻<br>28          |
| 2. 論文標題<br>Sentence-final particle e in Tagalog | 5. 発行年<br>2018年     |
| 3. 雑誌名<br>Southeast Asian Linguistics Society   | 6. 最初と最後の頁<br>17-19 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                  | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)          | 国際共著<br>該当する        |

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>Nagaya, Naonori & Hyun Kyung Hwang                              | 4. 巻<br>1             |
| 2. 論文標題<br>Focus and prosody in Tagalog                                   | 5. 発行年<br>2018年       |
| 3. 雑誌名<br>Perspectives on information structure in Austronesian languages | 6. 最初と最後の頁<br>375-388 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.5281/zenodo.1402557                        | 査読の有無<br>有            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)                                    | 国際共著<br>該当する          |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>Takahashi, Yasunori   | 4. 巻<br>20          |
| 2. 論文標題<br>The Phonological Status of Low Tones in Shanghai Tone Sandhi | 5. 発行年<br>2019年     |
| 3. 雑誌名<br>Language and Linguistics                                      | 6. 最初と最後の頁<br>15-45 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.1075/lali.00028.tak                      | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)                                  | 国際共著<br>該当する        |

|   |                        |
|---|------------------------|
| 1. 著者名<br>長屋尚典                                | 4. 巻<br>39             |
| 2. 論文標題<br>タガログ語の存在と所有のあいだ                    | 5. 発行年<br>2018年        |
| 3. 雑誌名<br>東京大学言語学論集                           | 6. 最初と最後の頁<br>223, 242 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.15083/00074542 | 査読の有無<br>無             |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)        | 国際共著<br>-              |

|  |                        |
|--|------------------------|
| 1. 著者名<br>上田広美                         | 4. 巻<br>49             |
| 2. 論文標題<br>クメール語の移動動詞に関する一考察           | 5. 発行年<br>2018年        |
| 3. 雑誌名<br>慶應義塾大学言語文化研究所紀要              | 6. 最初と最後の頁<br>109, 128 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無             |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著<br>-              |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>岡野賢二                                 | 4. 巻<br>24          |
| 2. 論文標題<br>日本語とビルマ語の相互変換における問題点 人物を指示する名詞周辺の現象 | 5. 発行年<br>2019年     |
| 3. 雑誌名<br>東京外大東南アジア学                           | 6. 最初と最後の頁<br>55-79 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.15026/92935     | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)         | 国際共著<br>-           |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>FURIHATA, Masashi   | 4. 巻<br>24          |
| 2. 論文標題<br>An analysis of pitch movement of sentences with topic markers in Sundanese | 5. 発行年<br>2019年     |
| 3. 雑誌名<br>東京外大東南アジア学  | 6. 最初と最後の頁<br>80-99 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.15026/92936  | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)  | 国際共著<br>-           |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>上田広美                         | 4. 巻<br>51            |
| 2. 論文標題<br>クメール語の結果を表す動詞に関する一考察        | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>慶應義塾大学言語文化研究所紀要              | 6. 最初と最後の頁<br>149-172 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著<br>-             |

|  |                      |
|--|----------------------|
| 1. 著者名<br>益子幸江, 鈴木玲子                       | 4. 巻<br>99           |
| 2. 論文標題<br>ラオ語の3語文における声調についての音響音声学的研究      | 5. 発行年<br>2019年      |
| 3. 雑誌名<br>東京外国語大学論集                        | 6. 最初と最後の頁<br>92-113 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.15026/94295 | 査読の有無<br>有           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)     | 国際共著<br>-            |

|  |                      |
|--|----------------------|
| 1. 著者名<br>鈴木玲子                             | 4. 巻<br>25           |
| 2. 論文標題<br>ラオ語ルアンパバーンの方言の音韻体系              | 5. 発行年<br>2019年      |
| 3. 雑誌名<br>東京外大東南アジア学                       | 6. 最初と最後の頁<br>92-113 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.15026/94090 | 査読の有無<br>有           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)     | 国際共著<br>-            |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>Nagaya, Naonori   | 4. 巻<br>156         |
| 2. 論文標題<br>The thetic/categorical distinction in Tagalog revisited: A contrastive perspective | 5. 発行年<br>2019年     |
| 3. 雑誌名<br>Gengo Kenkyu  | 6. 最初と最後の頁<br>47-66 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.11435/gengo.156.0_47   | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)  | 国際共著<br>-           |

|  |                      |
|--|----------------------|
| 1. 著者名<br>高橋康德   | 4. 巻<br>23           |
| 2. 論文標題<br>上海語の変調域－会話教材音声を用いた量的分析－                       | 5. 発行年<br>2019年      |
| 3. 雑誌名<br>音声研究   | 6. 最初と最後の頁<br>98-110 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.24467/onseikenkyu.23.0_98 | 査読の有無<br>有           |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)                   | 国際共著<br>-            |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>峰岸真琴, スニサー・ウィッタヤーパンヤーノン      | 4. 巻<br>2             |
| 2. 論文標題<br>タイ語の主題とその談話での現れ方について        | 5. 発行年<br>2019年       |
| 3. 雑誌名<br>言語の類型特徴対照研究会論集               | 6. 最初と最後の頁<br>111-135 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-             |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>峰岸真琴                               | 4. 巻<br>11          |
| 2. 論文標題<br>音韻体系の対照と外国語教育：日本語，タイ語，カンボジア語を例として | 5. 発行年<br>2021年     |
| 3. 雑誌名<br>日本語・日本学研究                          | 6. 最初と最後の頁<br>23-39 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.15026/100255  | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている (また、その予定である)       | 国際共著<br>-           |



|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>上田広美                             | 4. 巻<br>26          |
| 2. 論文標題<br>クメール語の情報構造                      | 5. 発行年<br>2020年     |
| 3. 雑誌名<br>東京外大東南アジア学                       | 6. 最初と最後の頁<br>84-96 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.15026/95676 | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)      | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>鈴木玲子                             | 4. 巻<br>26          |
| 2. 論文標題<br>ラオ語の語順と情報構造                     | 5. 発行年<br>2020年     |
| 3. 雑誌名<br>東京外大東南アジア学                       | 6. 最初と最後の頁<br>43-75 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.15026/95674 | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)      | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>降幡正志                             | 4. 巻<br>26          |
| 2. 論文標題<br>インドネシア語の情報構造に関するいくつかの事象         | 5. 発行年<br>2020年     |
| 3. 雑誌名<br>東京外大東南アジア学                       | 6. 最初と最後の頁<br>24-42 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.15026/95677 | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)      | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>岡野賢二                                 | 4. 巻<br>26          |
| 2. 論文標題<br>現代口語ビルマ語の情報構造について - 左方移動・右方移動を中心に - | 5. 発行年<br>2020年     |
| 3. 雑誌名<br>東京外大東南アジア学                           | 6. 最初と最後の頁<br>24-42 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.15026/95673     | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)          | 国際共著<br>-           |

|   |                    |
|---|--------------------|
| 1. 著者名<br>Nagaya, Naonori, Hiroto Uchihara            | 4. 巻<br>15         |
| 2. 論文標題<br>Ludlings and phonology in Tagalog          | 5. 発行年<br>2021年    |
| 3. 雑誌名<br>Asian and African Languages and Linguistics | 6. 最初と最後の頁<br>9-20 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.15026/99893            | 査読の有無<br>有         |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)                 | 国際共著<br>該当する       |

[学会発表] 計28件(うち招待講演 3件/うち国際学会 16件)

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Nagaya, Naonori                             |
| 2. 発表標題<br>Nominalization in Tagalog conversation      |
| 3. 学会等名<br>13th Philippine Linguistics Congress (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Nagaya, Naonori   |
| 2. 発表標題<br>Motion event descriptions in Tagalog  |
| 3. 学会等名<br>Motion Event Descriptions across Languages (MEDAL). National Institute for Japanese Language and Linguistics (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2019年  |

|                           |
|---------------------------|
| 1. 発表者名<br>長屋尚典           |
| 2. 発表標題<br>タガログ語移動表現の経路表示 |
| 3. 学会等名<br>日本語学会          |
| 4. 発表年<br>2018年           |

|                                 |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名<br>峰岸真琴                 |
| 2. 発表標題<br>タイ語の数量表現再考           |
| 3. 学会等名<br>言語の類型特徴をとらえるための対照研究会 |
| 4. 発表年<br>2018年                 |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>FURIHATA, Masashi   |
| 2. 発表標題<br>Partikel 'wa' dalam Bahasa Jepang dari Segi Studi Kontrastif dengan Bahasa Indonesia dan Bahasa Sunda |
| 3. 学会等名<br>Simposium Peringatan 60 Tahun Hubungan Diplomatik Indonesia-Jepang (国際学会)                             |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>長屋尚典, 天野友亜, 榎本恵実, 大久保圭夏, 鈴木唯, 他 |
| 2. 発表標題<br>経路の種類と経路表示 東京外国語大学における通言語的実験の成果 |
| 3. 学会等名<br>Prosody & Grammar Festa         |
| 4. 発表年<br>2019年                            |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Nagaya, Naonori   |
| 2. 発表標題<br>Flores Malay: A preliminary description                     |
| 3. 学会等名<br>The second international workshop on Malay varieties (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|                            |
|----------------------------|
| 1. 発表者名<br>長屋尚典            |
| 2. 発表標題<br>タガログ語の存在と所有のあいだ |
| 3. 学会等名<br>日本言語学会第154回大会   |
| 4. 発表年<br>2017年            |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Nagaya, Naonori   |
| 2. 発表標題<br>On the nature of complementation in Tagalog                   |
| 3. 学会等名<br>International Conference on Role and Reference Grammar (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2017年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Nagaya, Naonori  |
| 2. 発表標題<br>Focus and prosody in Tagalog: An experimental study                                    |
| 3. 学会等名<br>95 years of UP Linguistics, University of the Philippines, Diliman, Quezon City (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2017年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Florinda Amparo Adarayan Palma Gil & Naonori Nagaya                                      |
| 2. 発表標題<br>CEFR-Based Can-Do Approach to Teaching Filipino as a Second Language                     |
| 3. 学会等名<br>Foreign Language Summit 2017, University of the Philippines, Diliman, Quezon City (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2017年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Furihata, Masashi   |
| 2. 発表標題<br>Analysis on Pitch Movement of Sentences with Topic Markers in Sundanese   |
| 3. 学会等名<br>The Sixth International Symposium On The Languages Of Java (Isloj 6). Universitas Dian Nuswantoro, Semarang, Central Java, Indonesia (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2017年  |

|                              |
|------------------------------|
| 1. 発表者名<br>高橋康德              |
| 2. 発表標題<br>定量的な観点から見た上海語の変調域 |
| 3. 学会等名<br>日本言語学会第155回大会     |
| 4. 発表年<br>2017年              |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>峰岸真琴                            |
| 2. 発表標題<br>タイ語の情報構造に関わる諸表現：「逸脱」による際立たせを巡って |
| 3. 学会等名<br>東南アジア諸言語研究会                     |
| 4. 発表年<br>2017年                            |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Thuzar Hlaing, Kenji Okano   |
| 2. 発表標題<br>Burmese/Myanmar Demonstratives: A New Explanation and Perspectives                         |
| 3. 学会等名<br>2019 Theoretical Linguistics at Keio (TaLK) “ Myanmar Linguistics, State of the Art (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2019年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>FURIHATA, Masashi   |
| 2. 発表標題<br>On the particle tea in Sundanese  |
| 3. 学会等名<br>The seventh international symposium on the languages of Java (Isloj 7) (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2019年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Hyun Kyung Hwang, Naonori Nagaya, Julian Villegas             |
| 2. 発表標題<br>Cue weighting in the perception of Tagalog stress             |
| 3. 学会等名<br>The 178th Meeting of the Acoustical Society of America (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2019年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Takahashi, Yasunori   |
| 2. 発表標題<br>Dynamics of the diachronic changes of Shanghai tone sandhi                                |
| 3. 学会等名<br>The 27th Annual Conference of the International Association of Chinese Linguistics (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2019年  |

|                          |
|--------------------------|
| 1. 発表者名<br>峰岸真琴          |
| 2. 発表標題<br>情報構造と焦点化研究の概要 |
| 3. 学会等名<br>言語の類型的特徴対照研究会 |
| 4. 発表年<br>2020年          |

|                          |
|--------------------------|
| 1. 発表者名<br>降幡正志          |
| 2. 発表標題<br>インドネシア語の情報構造  |
| 3. 学会等名<br>言語の類型的特徴対照研究会 |
| 4. 発表年<br>2020年          |

|                          |
|--------------------------|
| 1. 発表者名<br>上田広美          |
| 2. 発表標題<br>クメール語の情報構造    |
| 3. 学会等名<br>言語の類型的特徴対照研究会 |
| 4. 発表年<br>2020年          |

|                          |
|--------------------------|
| 1. 発表者名<br>岡野賢二          |
| 2. 発表標題<br>ビルマ語の情報構造     |
| 3. 学会等名<br>言語の類型的特徴対照研究会 |
| 4. 発表年<br>2020年          |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Nagaya, Naonori   |
| 2. 発表標題<br>Teaching the Filipino Language in Japan   |
| 3. 学会等名<br>International Conference on the Shared Histories and Cultural Heritage of Japan and the Philippines (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2020年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Nagaya, Naonori   |
| 2. 発表標題<br>The middle voice in symmetrical voice languages: Toward a diachronic typology |
| 3. 学会等名<br>53rd Annual Meeting of the Societas Linguistica Europaea (国際学会)               |
| 4. 発表年<br>2020年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Nagaya, Naonori  |
| 2. 発表標題<br>Usage-based Philippine linguistics   |
| 3. 学会等名<br>Br. Andrew Gonzalez FSC Distinguished Professorial Lecture in Linguistics and Language Education (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>降幡正志                                 |
| 2. 発表標題<br>インドネシア語とスダ語の情報構造について                 |
| 3. 学会等名<br>インドネシア日本語教育学会第2回国際研究大会 (招待講演) (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2020年                                 |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>高橋康德                          |
| 2. 発表標題<br>漢越語の形態統語的特徴：特殊な文法的特徴は借用されるのか？ |
| 3. 学会等名<br>日本語学会                         |
| 4. 発表年<br>2020年                          |



〔図書〕 計8件

|                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>野間秀樹, 峰岸真琴 他 | 4. 発行年<br>2018年 |
| 2. 出版社<br>くろしお出版       | 5. 総ページ数<br>704 |
| 3. 書名<br>韓国語教育論講座 第3巻  |                 |

|                               |                 |
|-------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>降幡 正志、原 真由子         | 4. 発行年<br>2020年 |
| 2. 出版社<br>白水社                 | 5. 総ページ数<br>162 |
| 3. 書名<br>ニューエクスプレスプラス インドネシア語 |                 |

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>野田尚史, 茂木俊伸, 小柳智一, 中西久美子, 狩俣繁久, 鄭相哲, 井上優, 峰岸真琴, 原真由子, 今村泰也, プラシャント・パルデシ, 桐生和幸, 岸本秀樹, 林徹, 米田信子, 大澤舞, 筒井友弥, デロワ・中村弥生, ユラ・マテラ | 4. 発行年<br>2019年 |
| 2. 出版社<br>くろしお出版  | 5. 総ページ数<br>348 |
| 3. 書名<br>日本語と世界の言語のとりたて表現   |                 |

|  |                 |
|--|-----------------|
| 1. 著者名<br>大谷直輝, 中山俊秀, 岩崎勝一, 佐治伸郎, 吉川正人, 松本善子, 大野剛, サドラー美澄, 第十早織, 鈴木亮子, 巽智子, 柴崎礼士郎, 長屋尚典, 堀内ふみ野, 木本幸憲, 田村敏広 | 4. 発行年<br>2020年 |
| 2. 出版社<br>ひつじ書房  | 5. 総ページ数<br>408 |
| 3. 書名<br>認知言語学と談話機能言語学の有機的接点: 用法基盤モデルに基づく新展開   |                 |

|  |                 |
|--|-----------------|
| 1. 著者名<br>窪園晴夫、五十嵐陽介、秋田喜美、野田尚史、井戸美里、山本秀樹、ブラシャントバルデシ、松本曜、鈴木唯、高橋舜、谷川みずき、長屋尚典、吉成祐子、田中雄、岸本秀樹、窪田悠介、守田貴弘 | 4. 発行年<br>2021年 |
| 2. 出版社<br>開拓社  | 5. 総ページ数<br>328 |
| 3. 書名<br>日本語研究と言語理論から見た言語類型論   |                 |

|                            |                 |
|----------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>鈴木玲子             | 4. 発行年<br>2019年 |
| 2. 出版社<br>白水社              | 5. 総ページ数<br>168 |
| 3. 書名<br>ニューエクスプレスプラス ラオス語 |                 |

|                              |                 |
|------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>上田広美               | 4. 発行年<br>2020年 |
| 2. 出版社<br>白水社                | 5. 総ページ数<br>161 |
| 3. 書名<br>ニューエクスプレスプラス カンボジア語 |                 |

|  |                 |
|--|-----------------|
| 1. 著者名<br>森雄一、西村義樹、長谷川明香、石塚政行、長屋尚典、李菲、三宅登之、小嶋美由紀、相原まり子、西山志風、高橋英光、加藤重広、森雄一、真田敬介、大橋浩、野村剛史、小柳智一 | 4. 発行年<br>2019年 |
| 2. 出版社<br>くろしお出版   | 5. 総ページ数<br>336 |
| 3. 書名<br>認知言語学を拓く  |                 |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

## 6. 研究組織

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)                      | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)                    | 備考 |
|-------|--|--|----|
| 研究分担者 | 長屋 尚典<br>(Nagaya Naonori)<br>(20625727)        | 東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・准教授<br><br>(12601) |    |
| 研究分担者 | 鈴木 玲子<br>(Suzuki Reiko)<br>(40282777)          | 東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授<br><br>(12603)    |    |
| 研究分担者 | 降幡 正志<br>(Furihata Masashi)<br>(40323729)      | 東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授<br><br>(12603)   |    |
| 研究分担者 | 上田 広美<br>(Ueda Hiromi)<br>(60292992)           | 東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授<br><br>(12603)   |    |
| 研究分担者 | 岡野 賢二<br>(Okano Kenji)<br>(60376829)           | 東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授<br><br>(12603)   |    |
| 研究分担者 | ホワン ヒョンギョン<br>(Hwang Hyun Kyung)<br>(80704858) | 筑波大学・人文社会系・准教授<br><br>(12102)            |    |
| 研究分担者 | 高橋 康德<br>(Takahashi Yasunori)<br>(90709320)    | 神戸大学・大学教育推進機構・講師<br><br>(14501)          |    |

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

|   |                    |
|---|--------------------|
| 国際研究集会<br>29th Conference of Southeast Asian Linguistic Society | 開催年<br>2019年～2019年 |
|---|--------------------|

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|